

2020年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園さつなえのもり

1. 本園の教育・保育目標

- * 「こども中心・あそび中心のこどもの城」という学園理念に基づき、こどもたちの生き抜く力の基礎となる、心と身体の調和の取れた発達を遊びを通して育くむべく日々の保育を進めていく。
- * 乳児部幼児部共に、こども 1 人ひとりの個性を尊重し、自分で考え判断し行動するという主体的で自発的な活動を納得いくまでとことん取り組めるような環境づくりに努める。
- * こどもたちの主体性を育む上で必要な物的環境、時間的環境、空間的環境を創造していくことに全教職員は尽力し、共通認識を持って取り組んでいく。

2. 重点目標

- ・ こどもたちを「見守る」ということを改めて見直し、1 人ひとりに合わせ愛情深く寄り添い主体性を育むよう尽力する。
 - ・ 主体性を育む上で必要な物的環境・時間的環境・空間的環境を作り出す為、常に教職員は自ら学び研究する姿勢をもつ。
 - ・ 保育教諭をはじめすべての職員はその業務すべてがこどもたちの育ちに繋がっていくという自覚と誇りを持ち、様々な事柄に自ら主体的に取り組んでいく。
 - ・ 保護者との連携や交流を通してこどもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共有することで、こどもたちを共に育てる「共育」が進められるよう努める。
- ～変化することを恐れず現状継続とすることについてはその根拠をもって保育を進める～

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
こどもたちを「見守る」ということを改めて見直し、1 人ひとりに合わせ愛情深く寄り添い主体性を育むよう尽力する。	個々の育ちに合わせた支援や援助をし、それぞれの「見守り」について考えた。主体性を伸ばしていく環境をつくっていくにはどのような心の支援が必要なのかを見取ることで個々の育ちを保障することができた。
主体性を育む上で必要な物的環境・時間的環境・空間的環境を作り出す為、常に教職員は自ら学び研究する姿勢をもつ。	こどもたちの主体性を育むために必要な環境を整えるため、0 歳児から 5 歳児までの担任教諭で園内外の環境構成を学ぶ園内研修を年間通して行った。結果、こどもの育ちを包括的に捉えることができた。
保育教諭をはじめすべての職員はその業務すべてがこどもたちの育ちに繋がっていくという自覚と誇りを持ち、様々な事柄に自ら主体的に取り組んでいく。	こどもたちを取り巻く環境づくりすべてにおいて根拠をもって取り組むことが出来た。また、日々の園での暮らしを見直すことで行事そのものの存在意義について考えようと園全体で取り組むことが出来た。
保護者との連携や交流を通してこどもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共有することで、こどもたちを共に育てる「共育」が進められるよう努める。	クラスだよりや日々の保護者との対話の中で「日々の報告」ではなく「日々の育ち」を伝えられるよう職員で話し合っていた。どのようなことを共有したいのか、共に育ちを喜び合えるためにはどうアプローチするといったことを学ぶことができた。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全体的には、日々の保育に疑問をもって取り組み園の保育の流れから大きな見直し作業をおこなうことができた。具体的な保育の変化によりこどもたちの姿に変化が見られたことが職員の大きな自信にもつながった。